

地域の回復期・慢性期病床不足による当院の救急車お断り増加について

佐野厚生総合病院 病院長 村上円人

佐野厚生総合病院は、5 疾病 5 事業を担う地域の基幹病院として佐野市唯一の二次救急輪番病院として佐野市民の救急車を受け入れております。2019 年度は急性期病棟が満床のため、救急車のお断りが増えております（図 1）。2018 年より医師は順調に補充され医師側の救急車受け入れ体制は充実し、2020 年度は、さらに医師は増員し（図 2）、日本 DMAT 病院の認定、ロボット手術（ダ・ヴィンチ）開始が控えております。また、大幅な看護師の増員（およそ 40 人）も予定され、休床中の急性期病床の復活も予定しております。急性期病床の稼働は良好であり（図 3）満床の原因は、当院の転院の待機日数が増加しおよそ 41 日（宇都宮市内はおよそ 20 日）に延長したことが主因と考えられます。（図 4）。

地域医療構想において超急性期・急性期のさらなる充実が当院の役割です。一方、市内にある他の 2 病院には回復期・慢性期の治療の主役と一部の急性期医療が期待されております。しかし、2 病院が有している回復期・慢性期病床の多くは休床中です。

今後も二次救急輪番病院を当院のみが担当する状況は継続します。当院のこの待機日数を短縮することが、今後の救急車お断りを改善する最も有効な方法と考えます。二次救急輪番病院を担う医療機関の急性期病床が治療後の慢性期患者で占拠され、新規の急性期患者、救急車を受け入れられない流れがこのまま加速すれば、佐野市民が市内で急性期医療を受けられない危機に繋がると危惧しております。

この現状を解消するために関係機関と協議し、安心した地域医療体制を整えたいと思います。

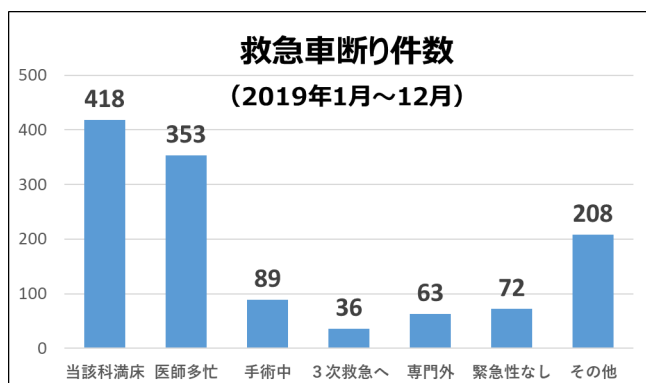


図 1

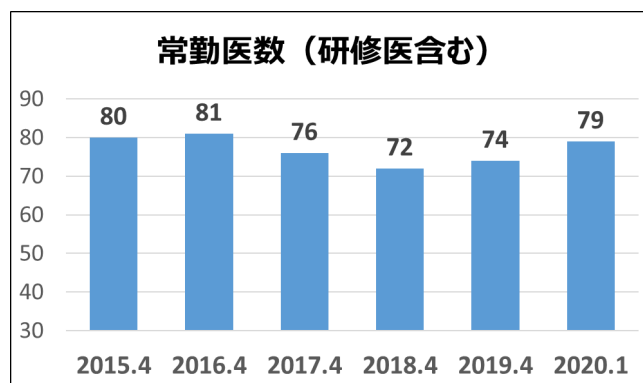


図 2

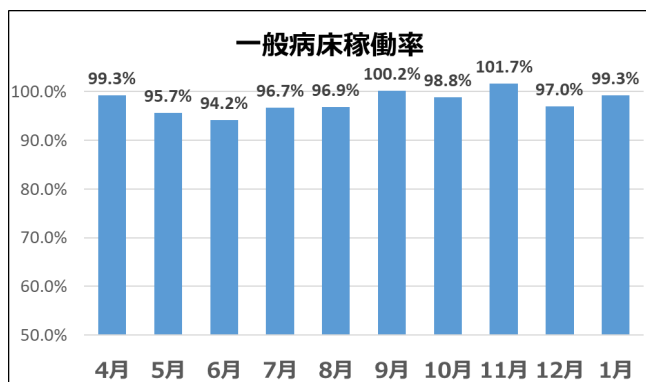


図 3

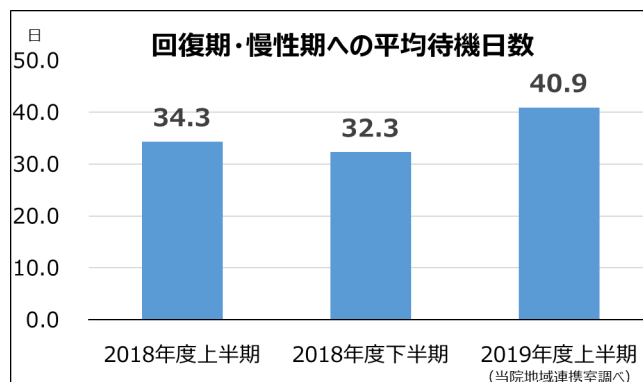


図 4